

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専 門 課 程 商 業 実 務	*1 総合情報ビジネス科	夜・通信	399.0 時間	160.0 時間	
	*1 総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース	夜・通信	199.5 時間	160.0 時間	
	*1 総合情報ビジネス科 ITビジネスコース	夜・通信	199.5 時間	160.0 時間	
工 業 専 門 課 程	モバイルアプリケーション科	夜・通信	285.0 時間	160.0 時間	
	情報システム科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	AIシステムエンジニア科	夜・通信	285.0 時間	240.0 時間	
	ネットワークシステム科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
	サイバーセキュリティ科	夜・通信	256.5 時間	240.0 時間	
	AIテクノロジーエンジニア科	夜・通信	256.5 時間	240.0 時間	
	高度ITエンジニア科	夜・通信	370.5 時間	320.0 時間	
	*2 建築科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	*2 建築科 建築工学コース	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	*2 建築科 CAD設計コース	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	建築大工技能科	夜・通信	456.0 時間	160.0 時間	
	インテリア科	夜・通信	228.0 時間	160.0 時間	
	電気工事科	夜・通信	256.5 時間	160.0 時間	
機械CAD設計科	夜・通信	285.0 時間	160.0 時間		

文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科	夜・通信	199.5 時間	160.0 時間	
	ゲームエンジニア科	夜・通信	256.5 時間	240.0 時間	
	CGクリエイター科	夜・通信	199.5 時間	160.0 時間	
	Webクリエイター科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	デジタルデザイン科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	デジタルミュージック科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	映像放送科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
	音響制作科	夜・通信	171.0 時間	160.0 時間	
(備考)					
*1 総合情報ビジネス科:令和4年度入学生よりコース制廃止 1年生:コースなし 2年生:コース制(ビジネスキャリアコース、ITビジネスコース)					
*2 建築科:令和4年度入学生よりコース制廃止 1年生:コースなし 2年生:コース制(建築工学コース、CAD設計コース)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

・ホームページにて公表

<https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#jitumu>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・ホームページにて公表

[https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijimeibo\\_2022.pdf](https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijimeibo_2022.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	【現職】(株)JC-21 教育センター 取締役	令和3年9月28日～令和5年9月27日	総務担当
非常勤	【前職】宮城県漁業協同組合女川町支所長	令和3年9月28日～令和5年9月27日	コンプライアンス担当
非常勤	【現職】東北大学特定認定再生医療等委員会委員	令和3年9月28日～令和5年9月27日	広報担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>① 教育課程編成委員会の設置</p> <p>カリキュラム(教育課程)の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。</p> <p>委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学科の教員によりカリキュラムについて検討し、改善案を作成する。</li> <li>2. 「教育課程編成委員会」(年に2回以上開催)において、現行カリキュラム及び1.で作成した改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。</li> <li>3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2.で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</li> </ol> <p>③シラバスの作成</p> <p>決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。</li> <li>2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</li> </ol>	
授業計画書の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表</li> <li><a href="https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#syllabus">https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#syllabus</a></li> </ul>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物(作品)および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。</li> <li>・100点法で評価した評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法(5~1)の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【成績評価】

- ・出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。
- ・100点法で評価した評価点をもとに、以下の基準で5段階法（5～1）の評定を行う。

評定 5段階	評価点 100点法	評価基準	合否
5	90以上	到達すべき目標を十分に達成し卓越した成果をあげた	合格
4	80～89	到達すべき目標を十分に達成し優れた成果をあげた	
3	70～79	到達すべき目標をおおむね達成した	
2	60～69	到達すべき目標を最低限達成したが不十分な点もみられる	
1	59以下	到達すべき目標を達成していない	不合格

【履修時間・単位の認定】

- ・学則に定められた各科目について、その評定が合格の場合、履修時間及び単位を認定する。
- ・認定する履修時間及び単位数は、学則における各学科の教育課程に示された数とする。

【学習成績、出席状況の把握】

- ・100点法による評価点、5段階法による評定点、評定平均、成績ランク、出席時間数、欠席時間数、出席率を記載した成績一覧表を、学科、学年、コースごとに作成し、成績不振および学習意欲が低下している生徒を把握する。
- ・各科目の5段階法による評定、成績ランク、出欠状況等を記載した、成績表を前期期末（10月）並びに後期期末（卒業学年：2月、進級学年：3月）に保護者宛て送付し家庭の理解や協力を求める。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

- ・ホームページにて公表  
<https://www.jc-21.ac.jp/pdf/gpa.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p><b>【進級認定基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。</li> <li>・年間 800 時間以上履修していること。</li> <li>・毎年 3 月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p><b>【卒業認定基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学則に定める教育課程をすべて受講し、その成績評定が合格であること。</li> <li>・2 年課程は 1,700 時間以上、3 年課程は 2,400 時間以上、4 年課程は 3,400 時間以上履修していること。</li> <li>・毎年 2 月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo.pdf</a></li> </ul>

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2021.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2021.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2021.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2021.pdf</a>
財産目録	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2021.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2021.pdf</a>
事業報告書	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2021.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2021.pdf</a>
監事による監査報告（書）	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2021.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2021.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	総合情報ビジネス科 (令和4年度1年生在籍)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	769.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	427.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			1225.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		50 人	1 人	4 人	3 人	7 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を充分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>在籍は1年生のみ。就職実績なし。</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>在籍は1年生のみ。 令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報は、「総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース」及び「総合情報ビジネス科 ITビジネスコース」を参照のこと。</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p> <p>令和4年入学生（1年生）よりコース制を廃止したため、別学科扱いで記載</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>前年度の在籍者なし</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース (令和4年度2年生在籍)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	456.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	741.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			1225.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		30 人	1 人	4 人	3 人	7 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																
28 人 (100%)	1 人 (3.6%)	26 人 (92.9%)	1 人 (3.6%)																																
(主な就職、業界等) イオン東北株式会社、アルプスアルパイン株式会社																																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング（販売士）検定 3級</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日商簿記検定 3級	③	28人	16人	リテールマーケティング（販売士）検定 3級	③	28人	21人	日本語ワープロ検定 2級	③	17人	11人	文書デザイン検定 1級	③	13人	13人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	28人	13人	コミュニケーション検定 初級	③	28人	23人	Microsoft Office Specialist Excel	③	28人	26人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
日商簿記検定 3級	③	28人	16人																																
リテールマーケティング（販売士）検定 3級	③	28人	21人																																
日本語ワープロ検定 2級	③	17人	11人																																
文書デザイン検定 1級	③	13人	13人																																
ビジネス実務マナー検定 3級	③	28人	13人																																
コミュニケーション検定 初級	③	28人	23人																																
Microsoft Office Specialist Excel	③	28人	26人																																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																																			
(備考)（任意記載事項） 令和4年入学生（1年生）よりコース制を廃止。令和4年度の2年生はコース制のまま。																																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
62 人	4 人	6.5 %
(中途退学の主な理由) 病気・学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務専門課程	総合情報ビジネス科 ITビジネスコース (令和4年度2年生在籍)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	171.0	28.5	1026.0	0.0	0.0
			単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			1225.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30 人		17 人	0 人	4 人	3 人	7 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																
21 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (95.2%)	1 人 (4.8%)																																
(主な就職、業界等) 株式会社ノボックス、CTCシステムマネジメント株式会社																																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日商簿記検定 3級	③	21人	10人	ITパスポート試験	③	21人	2人	日本語ワープロ検定 2級	③	12人	8人	文書デザイン検定 1級	③	4人	4人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	14人	コミュニケーション検定 初級	③	21人	17人	Microsoft Office Specialist Excel	③	21人	20人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
日商簿記検定 3級	③	21人	10人																																
ITパスポート試験	③	21人	2人																																
日本語ワープロ検定 2級	③	12人	8人																																
文書デザイン検定 1級	③	4人	4人																																
ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	14人																																
コミュニケーション検定 初級	③	21人	17人																																
Microsoft Office Specialist Excel	③	21人	20人																																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																			
(備考) (任意記載事項) 令和4年入学生（1年生）よりコース制を廃止。令和4年度の2年生はコース制のまま。																																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	1 人	2.6 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	モバイルアプリケーション科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1852.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	21 人	0 人	5 人	2 人	7 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
8 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (100%)	0 人 (0%)																				
(主な就職、業界等) (株)イツ・コーポレーション (株)テクノプロ (株)ねこまた 他IT系企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 2級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>Webデザイナー検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	3人	2人	基本情報技術者試験	②	3人	1人	ITパスポート	②	4人	3人	Webデザイナー検定 ベーシック	③	1人	1人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	3人	2人																				
基本情報技術者試験	②	3人	1人																				
ITパスポート	②	4人	3人																				
Webデザイナー検定 ベーシック	③	1人	1人																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0 単位時間／単位	1624.5 単位時間／単位	114.0 単位時間／単位	969.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2707.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200 人		235 人	1 人	4 人	1 人	5 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
84 人 (100%)	1 人 (1.2%)	73 人 (86.9%)	8 人 (9.5%)																
(主な就職、業界等) サイバーコム株式会社 株式会社シー・エス・イー 株式会社アルファシステムズ																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>34人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>17人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>42人</td> <td>21人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	34人	16人	応用情報技術者試験	②	17人	5人	ITパスポート試験	②	42人	21人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	②	34人	16人																
応用情報技術者試験	②	17人	5人																
ITパスポート試験	②	42人	21人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
196 人	14 人	7.1 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	AIシステムエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	3135.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			4303.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150 人	101 人	1 人	3 人	2 人	5 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
39 人 (100%)	0 人 (0%)	36 人 (92.3%)	3 人 (7.7%)																								
(主な就職、業界等) 株式会社東北システムズ・サポート、株式会社システムサイエンス、データ・マネージメント株式会社																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>11</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>39</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>20</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 基礎</td> <td>②</td> <td>13</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Oracle Certified Java Programmer, GOLD SE11</td> <td>③</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	②	11	5	基本情報技術者試験	②	39	20	応用情報技術者試験	②	20	4	SEA/J 基礎	②	13	3	Oracle Certified Java Programmer, GOLD SE11	③	1	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
ITパスポート試験	②	11	5																								
基本情報技術者試験	②	39	20																								
応用情報技術者試験	②	20	4																								
SEA/J 基礎	②	13	3																								
Oracle Certified Java Programmer, GOLD SE11	③	1	1																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考) (任意記載事項)																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
113 人	7 人	6.2 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、就職、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	ネットワークシステム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0 単位時間／単位	912.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1425.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2365.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		38 人	0 人	8 人	0 人	8 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
13 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (92.3%)	1 人 (7.7%)
(主な就職、業界等) 株式会社データコム、株式会社 メイテックフィルダーズ等、ネットワーク運用・管理を行う企業。			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	5人	2人
情報セキュリティマネジメント試験	②	11人	3人
CompTIA IT Fundamentals	③	12人	3人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	3 人	7.7 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	サイバーセキュリティ科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	2251.5 単位時間／単位	313.5 単位時間／単位	1510.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			4075.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人	61 人	2 人	3 人	5 人	8 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 (100%)	0 人 (0%)	19 人 (86.4%)	3 人 (13.6%)
(主な就職、業界等) 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー、CTCテクノロジー株式会社			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	16人	11人
情報セキュリティマネジメント試験	②	19人	8人
情報処理安全確保支援士試験	②	1人	1人
SEA/J 基礎コース試験	③	21人	10人
Linuxレベル1試験	③	10人	1人
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	4 人	6.7 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	A I テクノロジーエンジニア科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0 単位時間／単位	2308.5 単位時間／単位	199.5 単位時間／単位	883.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3391.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		30 人	0 人	6 人	5 人	11 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
12 人 ( 100 %)	0 人 (0%)	12 人 (100 %)	0 人 (0%)																
(主な就職、業界等) 株式会社SRA東北、日立Astemo仙台株式会社、株式会社マイスターエンジニアリング																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AI検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ETEC クラス2 グレードB</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	AI検定	③	12人	7人	ETEC クラス2 グレードB	③	12人	2人	基本情報技術者試験	②	4人	3人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
AI検定	③	12人	7人																
ETEC クラス2 グレードB	③	12人	2人																
基本情報技術者試験	②	4人	3人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	1 人	2.5 %
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	高度ITエンジニア科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	4218.0  単位時間／単位	3135.0 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	2223.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			5443.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	112 人	0 人	5 人	3 人	8 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
13 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (100%)	0 人 (0%)																				
(主な就職、業界等) 東北インフォメーション・システムズ株式会社、株式会社システムインテグレータ、アイレット株式会社、IT関連企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>13</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト試験</td> <td>②</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>AWS認定クラウドプラクティショナー</td> <td>③</td> <td>13</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	13	13	応用情報技術者試験	②	13	5	データベーススペシャリスト試験	②	5	2	AWS認定クラウドプラクティショナー	③	13	6
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者試験	②	13	13																				
応用情報技術者試験	②	13	5																				
データベーススペシャリスト試験	②	5	2																				
AWS認定クラウドプラクティショナー	③	13	6																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
101 人	2 人	2.0 %
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科 (令和4年度1年生在籍)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	655.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	541.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			1225.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	19 人	0 人	1 人	8 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。</li> <li>成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。</li> <li>評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。</li> <li>5段階評定は次の基準による。 5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>(2) 年間800時間以上履修していること。</li> </ul> </li> <li>但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。</li> <li>進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 在籍は1年生のみ。就職実績なし。			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 在籍は1年生のみ。 令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報は、「科建築 建築工学コース」及び「建築科 CAD設計コース」を参照のこと。			
(備考)（任意記載事項） 令和4年入学生（1年生）よりコース制を廃止したため、別学科扱いで記載			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由) 前年度の在籍者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科 建築工学コース (令和4年度2年生在籍)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	456.0 単位時間／単位	313.5 単位時間／単位	570.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			1339.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	14 人	0 人	1 人	8 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
16 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) (株) ヒノキヤグループ、株式会社ティーエスケー、小板橋建設 等建設業界															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理検定</td> <td>②</td> <td>16</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD基礎</td> <td>③</td> <td>16</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理検定	②	16	4	2次元CAD基礎	③	16	14
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
2級建築施工管理検定	②	16	4												
2次元CAD基礎	③	16	14												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項) 令和4年入学生（1年生）よりコース制を廃止。令和4年度の2年生はコース制のまま															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	1 人	3.2 %
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科 CAD設計コース (令和4年度2年生在籍)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間/単位	484.5 単位時間/単位	28.5 単位時間/単位	826.5 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
			1339.5 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	7 人	0 人	1 人	8 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
12 人 (100%)	0 人 (0%)	12 人 (100%)	0 人 (0%)																
(主な就職、業界等) 住友林業ホームエンジニアリング、積和建設、株式会社ティーエスケー、株式会社グリーンハウザー、株式会社ジェイベース 等建設業界																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理検定</td> <td>②</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD基礎</td> <td>③</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD二級</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理検定	②	12	4	2次元CAD基礎	③	12	10	2次元CAD二級	③	8	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
2級建築施工管理検定	②	12	4																
2次元CAD基礎	③	12	10																
2次元CAD二級	③	8	1																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考)（任意記載事項） 令和4年入学生（1年生）よりコース制を廃止。令和4年度の2年生はコース制のまま。																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24 人	3 人	12.5 %
(中途退学の主な理由) 体調不良・学生生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	建築大工技能科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	684.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		9 人	0 人	2 人	8 人	10 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (83.3%)	1 人 (16.7%)
(主な就職、業界等) 株式会社ヒノキヤグループ、(株)タフゴング、(株)ジェイベース、(株)カネソ曾根建業、(株)橋本工務店			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）			
	種別	受験者数	合格者数
丸のこ等従事者安全衛生教育修了	③	6	6
二次元CAD検定基礎	③	1	1
2級建築施工管理技士一次検定	②	10	1
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	1 人	8.3 %
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	インテリア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	798.0 単位時間／単位	370.5 単位時間／単位	1083.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	38 人	3 人	1 人	8 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
12 人 (100%)	0 人 (0%)	11 人 (91.7%)	1 人 (8.3%)																												
(主な就職、業界等) インテリア桜庭、池下設計、鎌田設計事務所、奥羽木工所、ユニホー、コメリ、テクノウッドワークス、ジェイベース、パルコホーム 等																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験2級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定試験3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>2級インテリア設計士</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級リビングスタイリスト	③	12人	10人	福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	12人	4人	福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	1人	1人	色彩士検定試験3級	③	13人	12人	インテリアコーディネーター	③	1人	1人	2級インテリア設計士	③	4人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
2級リビングスタイリスト	③	12人	10人																												
福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	12人	4人																												
福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	1人	1人																												
色彩士検定試験3級	③	13人	12人																												
インテリアコーディネーター	③	1人	1人																												
2級インテリア設計士	③	4人	2人																												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																															
(備考) (任意記載事項)																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34 人	1 人	2.9 %
(中途退学の主な理由) 経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電気工事科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	997.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1225.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	65 人	1 人	1 人	6 人	7 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
20 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社関電工、日本電設工業株式会社、株式会社ユアテック、株式会社サンテック、東北電化工業株式会社他 電気工事系企業															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td>②</td> <td>20</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>2級電気工事施工管理技術検定</td> <td>②</td> <td>20</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一種電気工事士	②	20	17	2級電気工事施工管理技術検定	②	20	9
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
第一種電気工事士	②	20	17												
2級電気工事施工管理技術検定	②	20	9												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	機械CAD設計科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	32 人	1 人	3 人	6 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
14 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (92.9%)	1 人 (7.1%)																								
(主な就職、業界等) 株式会社SUBARU 群馬製作所、ストラパック株式会社、株式会社メイテックフィルダーズ その他機械設計関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験2級</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験1級(機械)</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist PowerPoint</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者試験2級	③	14	10	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	9	4	CGクリエイター検定ベーシック	③	11	5	Microsoft Office Specialist Excel	③	14	12	Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	14	13
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2次元CAD利用技術者試験2級	③	14	10																								
2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	9	4																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	11	5																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	14	12																								
Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	14	13																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考) (任意記載事項)																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36 人	0 人	0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	655.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2451.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3135 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		60 人	0 人	5 人	8 人	13 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
29 人 (100%)	0 人 (0%)	25 人 (86.2%)	4 人 (13.8%)												
(主な就職、業界等) 株式会社トスネット、株式会社アミノ、株式会社ビジュアルアーツ、株式会社オルジエスタ															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>29人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	29人	25人	色彩士検定3級	③	10人	9人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
CGエンジニア検定 ベーシック	③	29人	25人												
色彩士検定3級	③	10人	9人												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82 人	13 人	15.9 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、進路変更、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	ゲームエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3078.0 単位時間／単位	570.0 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	2622.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			3220.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150 人	106 人	0 人	6 人	5 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を充分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
42 人 (100%)	0 人 (0%)	41 人 (97.6%)	1 人 (2.4%)																
(主な就職、業界等) 株式会社トーセ、株式会社スタジオフェイク、株式会社オーツ、株式会社シフォン、他 IT業界																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>42</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>42</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>24</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	42	31	C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	42	33	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	24	18
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
CGエンジニア検定 ベーシック	③	42	31																
C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	42	33																
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	24	18																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
127 人	13 人	10.2 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、学校生活不適應、経済的理由、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	CGクリエイター科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	456.0 単位時間／単位	256.5 単位時間／単位	1539.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		101 人	1 人	2 人	5 人	7 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
34 人 (100%)	0 人 (0%)	30 人 (88.2%)	4 人 (11.8%)								
(主な就職、業界等) 株式会社UNIT、株式会社サブリメーション、株式会社GEMBA、株式会社ミックス											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>48人</td> <td>37人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定ベーシック	③	48人	37人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
CGクリエイター検定ベーシック	③	48人	37人								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項） CG-ARTS協会アニメーション実技試験において全国成績上位者30名のうち1名が本学科学生											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87 人	3 人	3.4 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	Webクリエイター科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	427.5 単位時間／単位	171.0 単位時間／単位	1653.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	51 人	0 人	5 人	3 人	8 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
20 人 (100%)	0 人 (0%)	15 人 (75%)	5 人 (25%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社ウェブエッジ 株式会社イレブンラボ 等 Web・デザイン関連企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報） <table border="1" data-bbox="188 779 874 994"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定 3級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス 3級</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定 ベーシック	③	20人	14人	マルチメディア検定 ベーシック	③	20人	15人	色彩士検定 3級	③	20人	12人	ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	19人	17人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
Webデザイナー検定 ベーシック	③	20人	14人																				
マルチメディア検定 ベーシック	③	20人	15人																				
色彩士検定 3級	③	20人	12人																				
ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	19人	17人																				
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	7 人	11.7 %
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	デジタルデザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	142.5 単位時間／単位	1966.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		39 人	0 人	2 人	4 人	6 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
13 人 (100%)	0 人 (0%)	11 人 (84.6%)	2 人 (15.4%)																								
(主な就職、業界等) アイリスオーヤマ株式会社、株式会社トッパングラフィックコミュニケーションズ、株式会社 三陸新報社																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>DTP検定ディレクション</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定ベーシック	③	13人	10人	CGクリエイター検定ベーシック	③	13人	10人	色彩士検定	③	13人	12人	DTP検定ディレクション	③	12人	9人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	13人	12人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
Webデザイナー検定ベーシック	③	13人	10人																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	13人	10人																								
色彩士検定	③	13人	12人																								
DTP検定ディレクション	③	12人	9人																								
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	13人	12人																								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人 東北映像製作社協会「映像コンテスト」応募リーフレットデザイン																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33 人	4 人	12.1 %
(中途退学の主な理由) 進学、学業不振、学校生活不適應、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	デジタルミュージック科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	541.5 単位時間／単位	28.5 単位時間／単位	1681.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	45 人	0 人	1 人	5 人	6 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
21 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (76.2%)	5 人 (23.8%)																
(主な就職、業界等) 株式会社アンドアッシュ 株式会社アップビート ボルテック株式会社 株式会社セント等、音楽・音響関連企業及び一般企業																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定3級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	MIDI検定3級	③	22人	18人	マルチメディア検定 ベーシック	③	22人	15人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	22人	22人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
MIDI検定3級	③	22人	18人																
マルチメディア検定 ベーシック	③	22人	15人																
サウンドレコーディング技術認定試験	③	22人	22人																
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46 人	4 人	8.7 %
(中途退学の主な理由) 病気、進路変更、経済問題		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	映像放送科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	1026.0 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1140.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	55 人	0 人	1 人	9 人	10 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
21 人 (100%)	0 人 (0%)	16 人 (76.2%)	5 人 (23.8%)								
(主な就職、業界等) 株式会社クラフティ、株式会社HONDA Progetta、株式会社セントラルジャパン、株式会社めんこいメディアブレン											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像音響処理技術者（初級）</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	映像音響処理技術者（初級）	③	16人	9人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
映像音響処理技術者（初級）	③	16人	9人								
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	4 人	9.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	音響制作科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	826.5 単位時間／単位	85.5 単位時間／単位	1339.5 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			2251.5 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	33 人	0 人	1 人	8 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の出席時数が授業時数の三分の二に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。
- ・成績は前期期末及び後期期末に評価する。各回の評価は100点法と5段階法で行う。
- ・評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する。
- ・5段階評定は次の基準による。  
5：90点～100点、4：80点～89点、3：70点～79点、2：60点～69点、1：59点以下
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

- ・学則に定める教育課程をすべて履修し、その成績及び履修時間数が次の基準に達した場合は、進級または卒業を認定する。
  - (1) 履修すべき全科目の評定が合格していること。
  - (2) 年間800時間以上履修していること。
- 但し、2年課程の学科においては2年間で1700時間以上、3年課程の学科においては3年間で2400時間以上、4年課程の学科においては4年間で3400時間以上履修していること。
- ・進級及び卒業については、学年末に進級、卒業認定会議で審議の上校長が認定する。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
9 人 (100%)	1 人 (11.1%)	7 人 (77.8%)	1 人 (11.1%)												
(主な就職、業界等) 株式会社 東北共立 株式会社 総合舞台オペレーションズ															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士 3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士 3級	③	9人	8人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	9人	8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
舞台機構調整技能士 3級	③	9人	8人												
サウンドレコーディング技術認定試験	③	9人	8人												
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	3 人	11.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應, 就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学 科 名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合情報ビジネス科	70,000	594,000	221,000	「その他」の欄に 計上した費用  1.施設設備費 2.教科書教材費 3.諸経費
モバイルアプリケーション科	70,000	660,000	261,000	
情報システム科	70,000	660,000	261,000	
A I システムエンジニア科	70,000	660,000	261,000	
ネットワークシステム科	70,000	660,000	261,000	
サイバーセキュリティ科	70,000	660,000	261,000	
A I テクノロジーエンジニア科	70,000	660,000	261,000	
高度 I T エンジニア科	70,000	660,000	261,000	
ゲームクリエイター科	70,000	660,000	251,000	
ゲームエンジニア科	70,000	660,000	251,000	
C G クリエーター科	70,000	672,000	256,000	
W e b クリエーター科	70,000	642,000	286,000	
デジタルデザイン科	70,000	642,000	286,000	
デジタルミュージック科	70,000	678,000	251,000	
映像放送科	70,000	684,000	261,000	
音響制作科	70,000	684,000	256,000	
建築科	70,000	636,000	286,000	
建築大工技能科	70,000	672,000	296,000	
インテリア科	70,000	624,000	296,000	
電気工事科	70,000	672,000	266,000	
機械 C A D 設計科	70,000	636,000	286,000	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>下記修学支援は入学時のみ適用</p> <p><b>試験特待生制度</b> 本校独自の学力試験の結果により免除 75 名程度  試験特待生 A…40 万円  試験特待生 B…30 万円  試験特待生 C…20 万円  試験特待生 D…10 万円</p> <p><b>資格特待生制度</b> 入学時に本校基準資格を取得している者  資格特待生 S…40 万円  資格特待生 A…30 万円  資格特待生 B…20 万円  資格特待生 C…10 万円</p> <p><b>親族入学制度</b> 入学希望者の両親、兄弟姉妹が東日本航空専門学校、東北電子専門学校、東北保健医療専門学校のいずれかの卒業生か在生学生の場合、7 万円免除</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2021_evaluation_1.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2021_evaluation_1.pdf</a>		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び当該学科の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(定数14名)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。 学校関係者評価委員会では、教育理念・目的、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流の11項目について評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめる。 学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の改善を年度内に行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。  今年度開催する学校関係者評価委員会(評価年度:2021年度)は、6月23日に実施し、評価結果は7月上旬に公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ミヤギテレビサービス	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県産業技術総合センター	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社ヒノタマ	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
株式会社ARCA	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
卒業生	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	卒業生
株式会社東北共立	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
株式会社アルゴグラフィックス	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県電気工事工業組合	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	業界団体
株式会社リード・サイン	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
リコージャパン株式会社	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
一般社団法人宮城県建築士事務所協会	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	業界団体
株式会社JC-21教育センター	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員

公益財団法人画像情報教育振興協会	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界団体
株式会社メンバーズ	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページにて公表</li> </ul>		
2020年度学校関係者評価結果		
<a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2020_evaluation_2.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2020_evaluation_2.pdf</a>		
2021年度学校関係者評価結果(2022年7月中旬公開予定)		
<a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2021_evaluation_2.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2021_evaluation_2.pdf</a>		
第三者による学校評価(任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校基本情報</li> </ul>
<a href="https://www.jc-21.ac.jp/">https://www.jc-21.ac.jp/</a>
<ul style="list-style-type: none"> <li>刊行物：入学案内</li> </ul>
<a href="https://www.jc-21.ac.jp/mail/siryu.html">https://www.jc-21.ac.jp/mail/siryu.html</a> より資料請求
電話：022-224-6501 より資料請求

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H104391010107
学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		236人	206人	245人
内 訳	第Ⅰ区分	123人	116人	
	第Ⅱ区分	64人	58人	
	第Ⅲ区分	49人	32人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				248人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	—	—
「警告」の区分に連続して該当	0人	—	—
計	0人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	14人	24人
計	0人	14人	24人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。